魚沼「新之助」生育情報

第３号

令和４年６月21日
魚沼農業普及指導センター
電話：025-792-1309
FAX　：025-792-9006

中干しは茎数を確認し、田植え後30日までに実施！

○生育調査結果（調査日６月20日）　（　）内は指標比・差

	田植日	草丈（cm）	茎数（本/㎡）	葉数（葉）	葉色（SPAD）
気象感応ほ	5/20	32（91%）	274（78%）	8.0(-0.5)	38.4(-0.6)
ＪＡ展示ほ	5/23	36(103%)	226（65%）	7.8(-0.7)	41.8(+2.8)
２地区平均	5/21	34（97%）	250（71%）	7.9(-0.6)	40.4(+1.4)
指標値	-	35	350	8.5	39.0

【生育の概要】
・指標値に比べ草丈「並」、茎数「少」、葉数「やや少」、葉色「やや濃」
・田植えの早いほ場は、既に中干しが実施され、田植え後30日のほ場では、概ね中干し適期を迎えている。
・今後は気温が高く、曇りや雨の日が多いと予想されており、茎数が急増する可能性が高いため遅れずに中干しを開始する。

【今後の管理のポイント】
１　適期に中干し開始
・新之助は茎数が増えやすい品種なので、中干しで茎数の増加を抑えることが 食味・品質基準を達成するポイントである。
・田植え後30日を過ぎたほ場は、早急に茎数を確認し中干しを実施する。
・田植えが遅いほ場でも、茎数の増加に注意し遅れずに中干しを実施する。

※中干し開始のめやす
目標穂数の80%程度の茎数　㎡当たり304本（1株あたり17本程度）を確保したら直ちに中干し開始

２　溝切りは必ず実施
・溝切りは、生育調節、秋作業の地耐力確保及びフェーン時及び秋の長雨等緊急時の迅速な排水とかん水のため、必ず実施する。

３　いもち病対策
・いもち病の箱施用剤を使用していない場合は、必ず水田施用粒剤による葉いもち防除を行う。
・今後の気象予報から、いもち病の発生が懸念されるため、葉色の濃いところ等を中心に早期発見に努め、発病を確認したら防除を実施する。

農作業時の熱中症に注意をしましょう。こまめな休憩と水分補給が大切です。